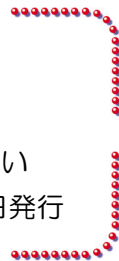




園 だ よ り 12 月 号

Y M C A 保 育 園 ね が い

2022 年 12 月 5 日 発 行



「 ギ フ ト 」

メリー クリスマス！沈む夕日が輝く空に明るい星を見つける時、今年もこの季節が巡ってきたことにわくわくします。（何才になっても！）

クリスマスは本当に“merry”楽しい時です。みんなが笑顔でごちそうやケーキを食べたり、プレゼントをいただいたり！

サンタクロースは貧しい人たちに贈り物をしたトルコの聖人セント ニコラスに由来すると言われていますが、未来を拓く子どもの命こそがプレゼント！希望の光！祝福の源です。

子どもを出産した時、最大の痛みに耐えた分娩台の上で祈りました。「神様、たとえどんな障害や病気があっても育てます。だから、命をあたえてください！」

ところが無事に生まれ「私が育てている」と思っていた若いころ、子どもが「〇〇ができない」「思い通りにならない」「困ったことばかりする」と思っていました。でも本当は、自分中心で子どもの気持ちに寄り添うことができずに困っていたのは私でした。

クリスマスの語源は Christ Mass（キリストの礼拝）イエス様の誕生を覚えて礼拝を捧げるという意味です。イエス様は人々を苦しみから救い、平和を伝えた救い主です。どんな人にも、等しく命を祝福してくださいました。「歯には歯を」というユダヤ教の律法（旧約）ではなく、「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」という新しい約束（新約聖書）を与えてくださったからです。（ローマの信徒への手紙 12 章 21 節）

「もし、〇〇だったら」「〇〇できれば」と、すぐに現実から目を背けて誰かのせいにしたくなります。でも、与えられているこの場所とこの時に今の私にできることを知り、謙虚に力を尽せるようになりたいと願っています。

12 月 17 日に園でクリスマスの礼拝をおこないます。幼児は初めてページェント（降誕劇）をして、子どもたちがクリスマスのメッセージをお伝えいたします。今まで、お話を聞いてきた子どもたちが今度はお捧げる側に育ったことを心から感謝いたします。（園長 今井 世都）

11 月の子どもたち



● 親子でガーデニング ●

11月19日(土)に親子でガーデニングを実施しました。ワイズメンズクラブの方々が、ご準備くださったパンジーの苗や球根を植えました。



申し込みくださった4組の親子と土曜日保育で登園していた子どもたちも一緒に、苗や球根に触れ、土いじりと幼虫探しを楽しみました。

春にはチューリップや水仙、百合の花が次々に花開く予定です。

● 12月の行事予定 ●

- 1日(木) 第1アドベント礼拝
- 7日(水) 身体測定(乳児)
- 8日(木) 第2アドベント礼拝
- 9日(金) 身体測定(幼児)
- 15日(木) 第3アドベント礼拝
- 17日(土) クリスマス礼拝
- 20日(火) 誕生会(幼児)
- 23日(金) 消火避難訓練
- 25日(日) クリスマス
- 29日(木)～1月3日(火) 年末年始休暇
- 1月4日(水) 新年保育開始

お知らせ

◎12月29日(木)～1月3日(火)

保育園は、年末年始休暇にてお休みとなります。

緊急連絡が必要な場合は、園携帯までご連絡ください。

● 12月のクラス目標 ●

- 0歳)・戸外での活動を通して、保育者と一緒に盛んに身体を動かして遊ぶ。
- ・シールや絵の具など、指先を使った遊びを保育者と一緒に楽しむ。
- 1歳)・気温や活動に合わせた衣服の調節を保育者と一緒に行い、快適に過ごす。
- ・保育者や友だちと、言葉や仕草でのやりとりをしながら、つもり遊びを楽しむ。
- 2歳)・様々な食材や調理をする人など、食にまつわるものへの興味を持って過ごす。
- ・指を使ってのりの感触を知り、紙に貼り付ける楽しさを持って表現する。

- 3歳)・清潔にする大切さを知って、自分から手洗いをする。
- ・友だちと一緒に好きな歌に合わせて、リズム楽器を自分なりに奏でて楽しむ。
- 4歳)・保育者や友だちとの安定した関係の中で、戸外での遊びに興味をもち、健康に過ごす。
- ・遊びの中でやりとりをしながら、イメージを共有していく楽しさを味わう。
- 5歳)・身体を動かす充足感を友だちと一緒に味わって過ごす。
- ・友だちと共有のイメージをもって認め合い、表現することを楽しむ。

クラスだより 12月号

YMCA 保育園ねがい

2022年12月12日 発行

ひかり（0歳児）

外遊びが大好きになり、戸外で遊ぶ機会が自然と増えています。保育者に帽子を被らせてもらおうと、園庭で準備をする保育者にも「早く行きたい」という思いが届くほど、保育室の扉に張り付いて心待ちにする様子があります。園庭に出ると、両手両足で力強くハイハイをしたり、靴を履いた足で歩行をしたりして探索する姿や、手で砂を握ったりシャベルですくったりして砂場で遊ぶ姿が見られます。

散歩に行く機会も増え、バギーに乗ったり、保育者と手を繋いで歩いたりして出掛けています。バスを見に行くと、「バス」と言う、指を差す、バスに手を振るといった姿が表れ、大興奮です。保育園前の UR 広場にて、初めてバギーから降りて遊んだ時、初めは緊張した様子がありましたが、数を重ねるうちに、保育者と一緒に落ち葉に触れてみたり、手を繋いで歩き回ったりする姿へと変わっていきました。落ち葉が山のようにならなると、喜んで入っていき、両手いっぱい落ち葉を抱える姿。保育者の真似をして「ばらばら」と抱えた落ち葉を落としてみたり、落ち葉を踏んでみたりする姿。UR 広場で過ごす機会を重ねる内に、感触や音にたくさん出会い、楽しく過ごすようになりました。

子ども一人ひとりの表情が豊かになり、発語が増え、元気に過ごす子どもたちを見ていると、とても嬉しい気持ちになります。子どもたちが、笑ったり怒ったり泣いたり喜んだり、思い切り表現をし、のびのびと生活していける環境を大切にこれからも一緒に過ごしていきたいと思います。



かぜ（1歳児）

保育者の温かな存在を感じ、そこから友だちへの興味が芽生え、もっと関わりたい気持ちが育まれています。保育者や友だちから名前を呼ばれて喜んだり、自分から手を差し出し「手を繋ごう」という気持ちを表したりして、関わりたい気持ちが満たされ、嬉しそうに過ごしています。

身体を動かすことが大好きな子どもたちなので、戸外で好きな遊びをしながら、活発に身体を動かしています。丸太やタイヤを積み上げてみたり、自分の力で登って周りの景色を眺めたり、その一連を「見てー」と得意気に保育者に見てもらったりして楽しんでいます。10月より散歩に出掛ける機会が多く取れたことで、散歩中にも色々な姿が見られるようになりました。時には散歩車に乗りたいと、歩くことを拒む時もありますが、数を重ねるうちに、保育者や友だちと手を繋いで歩く姿が多く見られるようになっていきます。保育園前の UR 広場に行った時には、追いかけてっこをしたり、落ち葉を拾い集めたり、好きな花や虫がいるか探してみたりしています。犬やバスに偶然、出会うことがあると、「おーい」と呼んでみる、「ばいばーい」と手を振るといった姿もあり、子どもたちから見える世界は、とても輝いていることが伺えました。

保育者や友だちと一緒に過ごす中で、もっと関わりたい気持ちや身体を動かしたい気持ちの育ちを、みんなで喜び合って過ごしていきたいと思います。



そら（2歳児）

冷たい空気に包まれる中、身体を動かし、汗をかいて遊ぶ姿が見られます。この数ヶ月にも、子どもたち同士での関わりが、より深まったように感じます。友だち同士で「あつぷっぷー」と面白い顔をし合うなど、声をあげて笑い合うことが、よく見られます。言葉のやりとりが盛んになり、「この前、△△行っただの」「〇〇は△△したんだ」と友だち同士で輪になり、行った場所や遊んだことを伝え合い、さらに「〇〇は△△行っただってー」と別の友だちや保育者に伝え、子どもたちで盛んに会話を伴う関わりを楽しむ様子が多く見られるようになってきました。

昼食を食べることが増えているだけでなく、これまで食べられずにいたものが少しでも食べてみようとするが増えてきていることも、大きな成長の一つです。10月から、昼食のおかずを配膳する際に、子どもたちが自分でおかずの量を選ぶ意識を持てるよう、保育者は「どれくらいにしようか？」と尋ねてから配膳するようにしています。尋ねられた子どもたちが「ちょっと」「ニンジンだけ」等と一人ひとりが答えていく中で、今まで手を付けられずにいた野菜を「これくらいなら…」と一口食べてみようとする姿が見られてきました。

子どもたちのやってみようとする意欲と、子どもたちが築いている自信を大切にして、成長し合うみんなを温かく見守っていききたいと思います。



ほし、つき、にじ（3、4、5歳児）

暑い夏を乗り越えて、体力がずいぶんとついてきました。戸外遊びでは、園庭で虫探しやなわとび、タイヤやボールを使って身体を動かしたり、砂場で友だちと協力しながら山やトンネルを作ったりと、それぞれに好きな遊びを思い切り楽しんでいます。最近では散歩に出かけ、たくさんの発見をしています。ヒラヒラと舞う落ち葉を見上げ「はっぱのシャワーだね」と話したり、「金木犀のいいにおりがする」と秋の香りに気付いたり…。様々な秋を感じ、ドングリや落ち葉を拾い、身近な虫を見つけながら散歩を楽しんでいます。つき組ではある時、散歩先でたくさんのドングリやバッタを見つけ、みんなで話し合いをして散歩バッグを作ることを決め、それぞれにオリジナル散歩バッグを作り、遠足にも持って出掛けました。遠足では、初めてのバスや友だちと一緒に食べるお弁当に喜び、たくさんの経験をすることができました。

日々の生活の中で、異年齢での関わりもさらに深まり、にじ組が遊んでいる様子にほし組の子どもたちが興味を示して模倣しようとしていたり、午睡時間の関わりに喜んだり…。また、にじ組の保育室を『ランチルーム』として、異年齢で食事を楽しめる環境を作り、配膳を自分たちで行うようにしています。汁物など少し難しいと感じるほし組の子たちに、にじ組のみんなが手伝ったり「ここでたべよう」と誘ったりして、自分から関わる姿がより多くなってきました。ほし・つき組の子は、異年齢児との交流を通して、年上の子からお世話をしてもらい経験から年下の子に目を向けるようになり、立ち止まって小さな子たちが遊んでいる様子を見守ったりお世話をしようとしていたり一段と成長しています。子どもたちが「やりたい」という気持ちをくみ取り、満足感や達成感が味わえる環境を工夫していきたいです。

